

学習発表や餅つき

名張で国津っ子フェス



千本杵でついた餅を高く掲げる
児童(名張市立国津小学校で)

の学校活動を紹介するスライドショーもあった。

校区外からの児童を受け入れている小規模特認校・名張市立国津小学校で27日、創立135周年のお祝いを兼ねた学校祭「国津っ子フェスティバル」が開かれ、学習発表や餅つきで児童や保護者、地域住民ら約150人が交流した。

千本杵の餅つきは同フェスティバルの名物行事。保護者が栽培したもち米で児童が交代で餅をついた。できたての餅は、児童が収穫した米でつくったおにぎりとともに参加者に振る舞われた。

135周年の歩みと現在

学習成果を発表 国津小でフェス

名張

名張市神屋の小規模特認校、市立国津小学校(雪岡正明校長、41人)で27日、「135周年おこいの国津っ子フェスティバル」があった。校区再編の議論が



手づくりリースを披露する子どもたち
—名張市で

なされるなか、フェスティバルを例年以上に盛り上げ、同小をアピールしようと企画。市立南中の吹奏楽部、早稲田大学アカペラサークルを初めて招いた。同小は1875年に前身の奈垣学校が開校。今年3月までに2411人が卒業した。

冒頭で、同小PTA会長の吉田秀実実行委員長(46)が「国津小は歴史のある学校。地域の皆さんに温かく見守られ、今の状況がある。後世につなげていきたい」と話した。

子どもたちは、南中吹奏楽部約25人の演奏で校歌を歌ったあと、今年度の学習成果を発表した。リースづくりや名張の方言など、校外学習やインタビュを通じて学んだことを、クイズを取り入れながら、元気に発表した。

【宮地佳那子】